

# 令和6年度第2回（定期）独立行政法人家畜改良センター

## 内部統制監視委員会議事要旨

### 1 日 時

令和7年3月6日（木） 14：15～16：00

### 2 場 所

独立行政法人家畜改良センター 第1会議室

### 3 出席者

委員【五十音順】

宮本 多可夫 委員長 宮本法律事務所 弁護士

尹 卿烈 委員 福島大学経済経営学類 教授

※上安平 洌子委員は、交通事情により欠席。

### 4 議事及び主な意見

#### 議題1 令和6年度内部統制推進取組概況

##### （1） 職員意識調査の取組

＜主な意見＞

① 調査結果で、コンプライアンスへの意識の浸透率について、浸透率が低い場合は、何が問題なのか、何を意味しているのか、どこまで浸透率を上げたいのかの規準を定める必要がある。また、回答が明確な肯定ではない場合は、回答者が何をイメージして回答したのか確認し、その理由を突き詰め、意識向上のために何をすべきか考える必要があると思われる。

② 意識調査の質問は、フィードバックの連続性のため、質問内容を変えていないという背景があるかもしれないが、質問内容が抽象的で個人により捉え方の違いが出てくることから、具体的内容の質問にすれば、調査について、職員の意識が向上するのではないか。

##### （2） コンプライアンス推進強化月間の取組

＜主な意見＞

特になし。

##### （3） 法令遵守に係る職員教育等の強化（eラーニングによる研修、食の安

## 全・業務品質向上のリスク管理講習会等実施)

### <主な意見>

- ① 職員教育について、組み替え再編を行ったことは、慣れによるマンネリ化、取組の意識の薄れの防止につながるもので評価できる。ただ、現状回避のためだけの取組とならないよう、組織として目標を定め実施してほしい。
- ② 講習会実施後の報告会をすることによりグループ・ディスカッションの話題となり、知識だけでなく、他の場所での経験を活用することができる教育となっており、高く評価できる。
- ③ 学習の取組みを行う上で、AIはいずれは導入しなければならず、リスク管理対策や情報セキュリティの対策についてどのように対策するのか、今から十分に検討しておく必要があると思われる。
- ④ 学習取組や、グループ・ディスカッション等への積極的な取り組みに、インセンティブの仕組みの活用も有効と思われる。

## (4) 監事監査等の実施状況

### <主な意見>

特になし。

## 議題2 コンプライアンス推進計画の策定

### <主な意見>

特になし。

## 議題3 各種委員会の運営状況

### <主な意見>

特になし。

## 議題4 令和7年度内部統制監視委員会の開催について

### <主な意見>

特になし。